

ポックリ信仰研究序説：ポックリ信仰の諸相

陳 甜

はじめに

現代日本で盛んな「ポックリ信仰」には、諸説が見られるが、辞書による定義が二つある。『日本民俗宗教辞典』によると、「臨終まで排便を他人の世話にならない（シモの世話にならない）で健やかに過ごし、病まず寝つかず極楽往生したいという信仰である」〔武田 1998：517〕とされる。また、『日本民俗大辞典』によると、「苦しむことなく、突然しかも安楽に死ぬるように願う神仏祈願。長患いをして嫁や子供たちに下の世話などで迷惑をかけることを厭うことからおこったものである」〔関沢 2000：543〕と記されている。両者にはシモの世話にならず安らかに死んでいきたい点においては通じるが、ただ武田の定義には「臨終まで健やかに過ごし」という点がその前に置かれ、「健康願望」と「安楽往生願望」と両方が強調され、本稿の論点と相通じるため、本稿においては、武田の定義に基づいて分析を行なう。

これについて、宗教学分野では、いち早く渡辺喜勝（1981）による考察が行われ、「 कोरोリ信仰」における祈りの第一のモチーフは〈死への指向〉で、第二のモチーフはきわめて具体的・現実的な生の営みであり、そのあり方である〈生への志向〉と分析されている。また鈴木岩弓（2004）は、ポックリ信仰の基本的な構造は、単なる安楽往生信仰ではなく、その前提に長寿祈願がなされている中で構成されていると述べている。民俗学分野では、早くこの問題を取り上げた木村博（1989,1993）は、ポックリ信仰は、「早くポックリ死にたい」というよりも、「年をとっても長患いすることなく、最後まで丈夫でいたい」というごく当たり前の願望なのだという反面をもつと主張している。宮田登は（1993）これは「安楽死を願う呪い」であるが、実際に寝たきり老人やボケ老人の下の病が祈願の対象となっていることを主張している。松崎憲三（2007）はポックリ信仰とは健康で長生きし、万一病気になったとしても長患いせず、しもの世話にならずに安らかに往生を遂げたい、という心境に基づく信仰と指摘している。

一方、最初に一冊の学術的研究書『ぽっくりさん信仰』にまとめた社会福祉学者である塚本哲（1976）は、「ぽっくり信心」というのは、何といても老後に「しも」の世話にならないように、また安楽往生できるように、という祈りから出発するものであると述べている。また塚本と同じ共同研究チームの一員として阿日寺において調査を実施していた山口信治（1978）は、ポックリ信仰は確実に近づきつつある死への備えというよりも、むしろ不確実なたれ流しへのそれであり、「下の世話にならずに長生きしたい」という祈願指向がポックリ信仰の「第一義的利益」であると指摘している。さらに井上勝也（1978）は吉田寺における調査をもとに、参拝者の参拝動機に焦点を当て、ポックリ願望とは、死の願望ではなく、紛れもなく、人としての尊厳を保つ

たよりよき生を目指した、「生の願望」なのであると述べている。

ここから明らかになるポックリ信仰とは「生」と「死」、さらに言うと、「健康長寿」と「安楽往生」の二つの祈りに関わるものであるという点である。具体的にシモの世話にならないよう、あるいは長患いしないように「シモの病封じ」「ボケ封じ（除け）」「病気平癒」などの願い事が掛けられる。また、文末の表に見られるように、「中風封じ」を前面に打ち出す寺院も見られる。中風になると、自由に身動きができなくなり、その結果シモの世話を受ける恐れが増大することから、「中風封じ」というご利益はポックリ信仰と通じる部分もあるのではないかと考えられる。

1970年代初めに、有吉佐和子（1972）の『恍惚の人』という小説が刊行され大ヒットとなったことをきっかけに、ポックリ信仰が盛んになったとされるのが一般的であるが、

この信仰は古い時代に既に存在しており、『角川古語大辞典』（第五巻）の「ぼっくりわうじやう：ぼっくり往生」の項目では、以下のような解説と用例が書かれている。

なんの苦痛もなく、突然死ぬこと。安楽な死に方であり、特に老人がこれを願ひ、願をかける寺もある。

*「是を呑ばくつうなしにころりとほつくりおうじやうときく」〔怪談記野狐之名玉（1772）・三〕〔中村他編 1999：320〕

さらに、「ぼっくり往生」の存在は元禄14（1701）年刊行の『けいせい色三味線』の以下の記述からわかる。

年寄ほど偽りいふものはなし。寺参しては、「今でもぼっくり往生」とねがい、「此苦界にうかうかとの長生一日もはやく往生したし」といわれる片手に（中略）息子成人して、元服いたせば、「あれに嫁を取て」と、其願ひもずらりとすめば、「孫を見てから」との念願孫が出れば彦が見たし。とかく死にとむないに極つたる事を、いわれぬ口さきで、往生をいそがるる虚がにくし。なぜに天道次第にしてはおかれぬぞ。持仏堂の仏も、毎日の看経毎に、「往生したき」との虚言は、さぞおかしうおぼしめさん。〔江島 1701（1989）：148—149〕

また、『日本国語大辞典』の「ぼっくり往生」の項目ではこのような解説と用例がある。

ぼっくりと死んでしまうこと。突然、苦しみも知らずに死ぬこと。頓死すること。

また、その死にかた。

*浮世草子・元禄大平記（1702）四・花の都におせやれおの子「ぼっくり往生（ワウジャウ）ねがふおやぢも」〔日本国語大辞典第二版編集委員会小学館国語辞典編集部編 2001：135〕

五
一

つまり、ポックリ信仰は社会状況の変化などによって、とりわけ現代社会において話題になってしばしば登場し、注目を集めているのは疑いないことである。しかしながら、上述の古典からみれば、古くから、少なくとも近世において寺院へ参って「ぼっくり往生」を願ったりするなど、その言葉や行為は既に存在し、何も現代社会の特有なものではないことが興味深い。

附表で示されているように、現在、ポックリ信仰を取り上げる宗教施設は日本全国各地に点在

しているが、それらにおいてポックリ信仰はいかなる形態を呈しているかについて、本論文で具体的事例を提示しながら、分析を行なっていく。

1 呼称

「ぼっくり」という語については、「物が折れるさま、転じて、元気だった人が突然死ぬさまを表わす語」と『日本国語大辞典』で解説されている。つまり、「ぼっくり」の語は、樹木や芯のある物が突然ぼっきりと折れることを指し、そこに恐らく「死」のイメージが入り込んで、「ぼっくり死ぬ」という表現で使用されることが多いのであろう。「ぼっくり」の他、「保久利」や「ころり」、「転利」や「ぴんぴんころり」、「PPK」や「嫁いらす」、「嫁楽」、「嫁助け」や「GNP（元気で長生きしてポックリといく）」など多様な呼称が使われる。その中でも、付表からわかるように、「ポックリ」と「コロリ」の使用例が最も多く、前者の「ポックリ」は西日本を中心に全国的広がりを見せるのに対し、後者の「コロリ」は東北地方を中心に固まって散見される。用語上の観点から、ポックリ信仰は「ポックリ系」と「コロリ系」との二種類に大別することができよう。

①ポックリ系：付表に示されているように、「ぼっくり観音」「ぼっくり不動尊」「ぼっくり大師」「ぼっくり地蔵」「ぼっくり弁天」「保久利大権現」「輔苦離往生仏」など、「ポックリ」を冠する信仰対象が多数見られる。関東や近畿地方を中心に、日本全国に受け入れられ、最も広く定着している呼び方であると言っても過言ではない。また「GNP」というやや現代風的な名称がしばしば聞こえる。これは元気（G）、長生き（N）、ポックリ（P）の頭文字でなされ、元気で長生きし、最後にポックリと死ぬという意味で、完全にポックリ信仰に当てはまるのであろう。

②コロリ系：付表に示されているように、主に東北地方において多く見られる。例えば、よく知られているのが例15、16、17の「会津ころり三観音」であり、「普門山弘安寺」の「中田観世音」と「金塔山恵隆寺」の「立木観音」と「金剛山如法寺」の「鳥追観音」との3ヶ所である。会津三観音奉賛会事務局による刊行されている「仏都あいづ 会津ころり三観音の旅」という冊子により、三観音を巡拝すると、「み仏の導きで心に安らぎが宿り諸病がなくなり、健康に恵まれ、長寿を全うして、やがては病に伏すことなく大往生が約束され、来世には極楽に往生が出来る」と広く人々の信仰を集めている。そのほか、例14の山形・米沢「普門院」の「ころり薬師」、例13の山形「風立寺」の「ころり観音」などがある。「ころり」という語については、『日本国語大辞典』では、「急に死ぬさま、たやすく死ぬさまを表わす語」と説明されている。つまり、「ぼっくり」と同じく、「ころり」の語にも「死」のイメージが裏に付いているわけである。それに、山形県米沢市の方言で「ころりと」があり、「そのまま」という意味を指す¹と解説されている。また、「ごろり」の項目では宮城県仙台市の方言として、「そのまま」という意味である²と記されている。これらの指摘に則るなら、「ころり系」の信仰対象には、何も人の手を煩わせることなく、ころりと（そのまま）死んでいきたいということになって東北地方に広がっていったのではないかと推測できる。



写真1 立木観音
(2014年7月31日筆者撮影)



写真2 中田観音
(2014年7月31日筆者撮影)



写真3 鳥追観音
(2014年7月31日筆者撮影)

さらに、「ピンピンコロリ」、「ピンコロ」や「PPK（ピンピンコロリの略）」といった呼称がある。昭和55（1980）年、「健康で長生きし、死ぬときはあっさり大往生したい」という町民の願いを叶えようと、長野県から派遣された北沢豊治氏による健康長寿体操が考案された。3年間普及され、その成果が日本体育学会に「ピンピンコロリ（PPK）運動について」と題し発表されたことにより、PPKが最初に世に出た³と長野県高森町のピンピンコロリ地蔵事務所ホームページで説明されている。それで、例33の長野県高森町「瑠璃寺」の「光明功德佛（ピンピンコロリ地蔵）」や例32の佐久市薬師寺の「ぴんころ地蔵」など長野県を中心に、ピンピンコロリ（PPK）が全国に知れ渡るようになった。

③その他：「嫁いらず」、「嫁楽」、「嫁助け」といった呼称もある。「嫁いらず」に関しては、一見して、嫁がいらないという誤解が生じることもあるが、そのような意味ではなく、一般の家庭で周囲の人の世話をする役目とされる嫁に面倒をかけない、とりわけシモの世話がいないという意味である。それは、よく世間話のネタになる「嫁姑問題」と関係があると思われる。つまり、もし老後自分が倒れて寝たきりになった場合、例えば今まで自分にいじめられてきた嫁に、シモの世話にならざるをえないしまいになると、姑にとっては尊厳が保たれず極めて屈辱の話だと考えられるわけである。

その中で、最も世に知られているのが例59の岡山県井原市大江町梶草にある「樋之尻山 嫁いらず観音」であろう。鈴木岩弓の論考によると、ここに参詣に来て「下着祈願」を行なうと、シモの世話で嫁の手を煩わすことなく安楽往生ができると考えられている。ただし、祈願成就のためには三回は参詣しなければならないと言われ、一回目は長寿無病息災、二回目は厄除け、三回目は安楽往生を祈願するものという [鈴木 2004：257-258]。

2 信仰対象

ポックリ信仰の祈願対象となるものは、実に多種多様である。それらを大別するなら三種類に分けることができる。

①神仏像。

ポックリ信仰の祈願対象となるものはほとんどこの類のもので、全体の9割以上を占めている。

その中で、表1に示されているように、最も多いのが地蔵と観音であることがわかる。渡浩一によると、観音菩薩と地蔵菩薩は、不動明王と並んで最も庶民的なほとけである⁵。地蔵菩薩は、「お地蔵さま」「お地蔵さん」などと呼ばれ、道傍に建立されるなど、人々に親しまれている。また、現当二世の利益者として信仰され、中世以降万能利益者ともいべき信仰対象になって、利益内容、祈願方法、霊験内容などに応じて様々な名称をもって親しみを込めて呼ばれることが多いとされる⁶。

表1 信仰対象となる神仏⁴

神仏像	件数
地蔵	22
観音	20
阿弥陀	4
釈迦	4
権現	3
弘法大師	3
烏枢沙摩明王	1
不動	1
薬師	1

また、観音菩薩に関しても、種々の現世利益が中心であるが、来世利益もありその利益は多様であるとされる⁷。つまり、地蔵でも観音でもその利益に示されているように、「現当二世」の利益を持つという点がポックリ信仰の祈願指向とよく合致し、最も信仰されているのではないかと考えられる。上述したように、ポックリ信仰はまさしく「生」と「死」、すなわち「現世」と「来世」と両方に関わるもので、健康で長生きするという「健康長寿願望」が前提となり、それでも寿命が来るなら、長患いせず苦しみなく死んでいけるような安楽往生を祈願するわけである。

表1の他、ポックリ信仰の祈願対象となるものは、例48の京都市東山区金園町の「金剛寺」の「庚申様」と呼ばれる青面金剛、例50の大阪市天王寺区「四天王寺・万燈院」の「紙子仏」など多岐にわたる。

②墓や石碑。これらは全て「那須与一」ゆかりのものである。

那須与一については、『平家物語』や『源平盛衰記』の軍記物語などに坂東武者の代表者として描かれていることはよく知られているところである。山中清次によると、与一が実在した人物かどうかは不明にもかかわらず与一に関する伝承が全国的分布している⁸。その中で、ポックリ信仰と結びついたのがその最期伝承であると考えられる。

前述の山中氏の論考によると、与一の死亡場所や墓に関する伝承は近畿、中国、四国に広く分



写真4 「飛不動尊」の「小原ぼけ除けころり観音」(2013年10月13日筆者撮影)



写真5 「延命寺」の「ころり地蔵尊」(2013年10月13日筆者撮影)

布している。そうした中、与一の最期に関わる伝承からは、彼が安らかに逝ったという事例と急死、病死したという反対の事例が確認される⁹。その中で、特にポッキリ信仰と結びついて名高いのが例52の兵庫県篠山井串の瑞祥寺の「那須与一大権現」、例53の兵庫県神戸市須磨区妙法寺町の「那須与一の墓」と例47の京都市東山区泉涌寺山内町の「即成院」の「那須与一の墓」、例49の亀岡市矢田町の「那須与一堂」と例62の徳島県名西郡石井町高原の「与一神社」の五ヶ所とされる。

その関わりについて、まずは京都の「即成院」の那須与一の墓を例としてみてみよう。木村博著『死一仏教と民俗』の「『安楽死』の願い」では、以下のような記述がある。

那須の与一が死んでゆく時、余程スソの世話がかかったと見え、これは私の業だ、私はこの病気で苦しんだのだから、世人も困るだろう。だから私一代でこの病気を無くすように私は守護神となろう、といい残したのだそうだ。[木村 1989 : 72]

また、神戸の「那須与一の墓」については、木村氏によると、昔与一の世話をした人の子孫によって構成されたといわれる「与一講」に保管されている「那須与一宗隆公之略伝記」によれば、出家して北向八幡宮に参籠、滞在中に病気になり、身体が自由にならない程悪くなってしまい、念仏講の人達が同情して念仏堂で看病したが、良くならなかったと言う。与一は死に際に「(略)我れ死にたる後、報恩謝徳の為必ず諸人に斯る難病に浸されぬ様守護し遣す」と人々に言い残し往生を遂げたと記されている¹⁰。

③自然石。この類に関しては、特に有名なのは例63の香川県高松市鬼無町の「安楽院」の「保久利大権現」である。昭和43年日本テレビ、昭和47年「毎日新聞」に取り上げられて以来、ここへの参拝は絶え間なかったという。昭和47(1972)年5月10日付の「毎日新聞」の家庭欄に「悲しい流行・ぽっくり流行」という題で以下の記事が掲載された。

お堂はトタン屋根に板囲いがしてあるだけ。物置小屋のように粗末なものだった。

ご神体は高さ一メートルの灰色がかった円すい型の自然石。薄暗い祭壇の奥に、まるでお坊さんが座禅を組んでいるようなかっこうで置いてあった。目をこらして見ると、つるつるし

た石の表面に「保久利大権現」と刻んだ文字が読みとれた。「ぽっくり」とはこの「保久利」がなまったものらしい。¹¹

上述してきたように、ポックリ信仰の祈願対象となるものは、特定の教義に基づいて決められることなく、神仏でも石でもなんでもいいわけである。神仏にしても特定のものではなく、まさに八百万の神仏である。つまり、願をかなえてくれれば、何でもその信仰対象になれる好き勝手に個人的なレベルにおいて展開されるものである。さらに、最初は個人がある対象に対して祈ったなら、「危機的状況」が解消されたという「オカゲ」体験があってはじめて〈個〉の祈願対象となったのである。そこから、その「オカゲ」体験をもって口コミやマスコミなどを通して、〈個〉の願を叶えてくれたモノが多くの人々に知られ、〈群〉の祈願対象となったのがよくあるパターンである。

3 地域分布

ポックリ信仰を扱っている場は、多くは仏教系の施設であるが、寺社問わず全国各地に存在している。表2にまとめられているように、東北地方において最も件数が多いが、全体的には、近畿や中部地方を中心に、西日本の方がより多くポックリ信仰を扱っていることがわかる。

それは大いにポックリ信仰の縁起話と、大いに関係があると思われる。ポックリ信仰は、青山央によれば、『往生要集』の著者である恵心僧都が臨終を迎える母を浄衣に着替えさせ、その呼吸に合わせて念仏を唱えたところ苦しむことなく安楽往生した、という逸話に基づいたものと言われている¹³。

そのため、1970年代ポックリ信仰のブーム期において、恵心僧都のゆかりを持ち、源信を開基としている例54の「吉田寺」と源信の誕生寺である例55の「阿日寺」がポックリ往生という有難いご利益がある寺院としてマスコミによって大きく報道され、一気に人気を集めた¹⁴。現在この両寺は、ポックリ信仰のメッカともいべき代表的なポックリ寺となり、そこへの参拝者が後を絶たない。以後、ポックリ信仰は近畿一円に広がりを見せ、西日本において盛んに展開されていったのではないかと推測できる。

4 ご利益内容

冒頭で述べられているように、ポックリ信仰の願掛けには、最期まで健康で長生きしたい「健康長寿願望」と苦しみなく死んでいきたい「安楽往生願望」という二つの目的が込められている。ただし、この二つは別々で存在しているのではなく、同時にこの信仰に内含されているのである。分析の便宜上、ポックリ信仰の内実を捉えるためにこのように分けているが、実質この二つの祈

表2 地域分布¹²

地方	件数
東北	17
関東	12
中部	14
近畿	13
中国	4
四国	6
九州	5

りは不可分であり、相補的にポックリ願望の基盤を形成している。

また、「ほけ除け」や「中風封じ」、「長患い封じ」などより具体的な利益内容も見られる。これらは、直接にポックリ信仰と関係していないように見えるが、厳密に言えば、健康で生きたい「健康長寿願望」という柱に帰着するわけである。ほけたり、中風になったりして自分の意思で動くことができなくなってしまうと、必ずではないが、他人からシモの世話を受ける恐れがあることは否認できなからう。つまり、「ほけ」や「中風」などの病気はシモの世話にならずにすむことへの邪魔となるものと思われ、それを怖れるため、「ほけないように」や「中風にならないように」といった具体的な願を立てたのではないかと考えられる。

現在、「ポックリ寺院巡り」はもとより、1984年に近畿・中国・山陰・四国・九州の真言宗33カ寺によってスタートされた「西国ボケ封じ三十三観音霊場」や1985年に和歌山・奈良・大阪の一府二県24カ寺によって発足された「ほけよけ地蔵尊霊場」といった「ほけ除け地蔵尊霊場」や「ボケ封じ観音霊場」と名乗る霊場が相次いで生まれ、活況ぶりを見せている。

5 関わり方

付表で示されているように、各宗教施設において、いかなる経緯を通して、ポックリ信仰と結びついたかについては、不明の所があり、「いつしか参詣すればぽっくり（ころり）往生ができる」と伝えられるようになった」ということがしばしば見られるが、判明できる範囲で、主に以下のように分類できよう。

①付加型：もともとある神仏が持つご利益にポックリのご利益を加えるパターンと考えていいであろう。つまり、時代や社会状況の変遷につれて、人々の願い事も変わりつつ、多様化を呈しているのである。したがって、寺院側はそれに応じて対処しなければならないという考えに基づいて行なう出来事ではないか、と考えられる。

その中で、典型的なのは「阿弥陀信仰」にポックリ信仰のご利益を加えるケースである。阿弥陀如来がポックリ信仰の祈願対象として祀られている寺院において、恵心僧都源信に関するゆかりのほか、筆者は「阿弥陀信仰」と「ポックリ信仰」の関係につき、「阿弥陀信仰」でいう「極楽往生」と「来迎引接」の点からその解明が可能ではないかと推測している。

伊藤唯真によると、日本における阿弥陀信仰の特色の一つは、阿弥陀仏の救済性に関するもので、阿弥陀仏の「来迎引接」と行者の「極楽往生」に特別の関心が寄せられていたことである。阿弥陀仏の来迎と衆生の極楽往生とは相応じるもので、この来迎引接と極楽往生が阿弥陀信仰を他の仏菩薩への信仰と区別するものである。

四五

『阿弥陀経』では、『無量寿経』で説かれる阿弥陀仏の四十八願の中で、第十九願は「来迎引接の願」といわれている¹⁵。

たとい、われ仏となるをえんとき、十方の衆生、菩提心を発し、もろもろの功德を修め、至心に願を發して、わが国に生れんと欲せば、^{いのち}寿の終る時に臨みて、(われ)もし、大衆とともに圍繞して、その人の前に現ぜずんば、正覚を取らじ。〔第十九願〕(中村元・早島鏡正・

紀野一義訳注『浄土三部経』岩波文庫、1990によるもの)

つまり、その「極楽往生」と「来迎引接」から、臨終の時、阿弥陀様のお迎えによってそのまま苦しみなく、安らかにその極楽浄土へ導いてくれるという有難い利益が付与されたのではないかと考えられる。

もう一つは「烏枢沙摩明王」である。もともと烏枢沙摩明王はインドの神話にとうじょうする火の神様「アグニ」で、不浄を厭わず、不浄な場所に巢食って諸病災厄の因をなす魔鬼の類を抑える呪力を有するために、廁の守護神としてよく知られている¹⁶。そこから、烏枢沙摩明王を祀ると、シモの病気を患わないとか、年取ってシモの世話にならないというご利益が生まれてきたと考えられる。

烏枢沙摩明王が「東司の神様」とか、「トイレの神様」などと呼ばれ、信仰を集めているのは例37の静岡県伊豆市市山の金龍山明德寺である。この明德寺には500余年前より烏枢沙摩明王が祀られているといい、傍にはおまたぎ、おさすりといって、高さ三尺ぐらいの男根石とくりぬき便所が造られており、男根石にさわって便所をまたぎ、祭壇の烏枢沙摩明王に拝めば、年取ってもシモの世話にならないと説明されている¹⁷。

つまり、烏枢沙摩明王は「トイレの神様」など廁の守護神から、シモの病気と関連され、シモの病封じ、あるいはシモの世話にならないという利益が加わり、ポックリ信仰の祈願対象へと発展したのではないかという一連のプロセスが考えられる。

②肖り型：実際に最期ポックリ往生を遂げた人に肖りたく、その人が信仰していた神仏が信仰対象として祀られるパターンである。ポックリ信仰を取り上げている宗教施設において、多くの場合はこのパターンの関わり方と言えよう。

例えば、前記の「安楽院保久利大権現」をみれば、「鬼無のぼっくりさん」とも呼ばれ、ポックリ信仰の祈願対象は「荒神様」と呼ばれている自然石である。その由緒については、前記の昭和47（1972）年5月10日付けの『毎日新聞』の記事内容によると、以下の話が記されている。

このお堂をお守りしている高松市のはずれ、木田郡庵治町、西国十五番寺「大師寺」住職、大野隆鳳さん（69）の話によると『ぼっくりさま』の信仰由来は、二百数十年前の享保年間にはじまるという。そのころ、衣掛村に「弥助」というひとり者のおじいさんがいて、朝晩、この自然石に手を合わせ「ぼっくりあゝの世へ行けますように」と祈ったところ、だれの厄介にもならず往生した。その話が村人たちに伝わり、自然石に「保久利大権現」の六文字が彫込まれ、願をかけると「家族のものに、しものめんどうをかけず、ぼっくり死ねる」という功德の伝説が残った。¹⁸

つまり、日頃からその対象に信仰したところ、誰の迷惑もかけずに往生したことから、その人に肖りたくて、すなわち、その人のように最期誰の迷惑もかけずに往生したい気持ちから、もともと個人にとっての「ポックリ願望」の信仰対象だった自然石のご利益談が次第に大勢の人々に広まり、ポックリ信仰と結びついたのではないかと考えられる。

③人神型：このパターンについては、まず「肖り型」と反対に、ポックリ往生できなかった、

つまり最期に病気に苦しんで人の世話になりながら死んでいった人が遺言をもって自らその守護神となるというケースがある。

例えば、前記の神戸の「那須与一の墓」の例はまさにこのパターンと見てもいいであろう。与一が死んでいく際に、中風になり、苦しんでいるところ、村人に看取られながら、「私が死んだ後は、報恩謝徳のために必ずあなた方がこのような難病にかからぬようにお守りいたします」¹⁹と言ひ残し、自らポックリ祈願の対象となった経緯が伝えられている。

もう一つのパターンは、つまり病気に苦しんで死んでいったかどうかはともかく、ただ死後に神として祀られ、靈験を現したとされるものに安楽往生のご利益があるというケースである。例22の群馬県伊勢崎市下道寺町にある「幸三郎地藏」をみれば、『伊勢崎市史』によると、あるとき墓地周辺の杉の大木を若者が中心になって伐採した際、作業中倒れてきた大木の下敷きとなり、26歳の若さで死んだので、その菩提のために建てられたものだとして記されている。「幸三郎地藏はさまざまな靈験を現し、近郷の人々の信仰を集めてきた。満願成就のあかつきには腹がけや頭巾を奉納した。老人が参詣すれば、安楽に成仏するといわれ（略）」[伊勢崎市編 1989：671]という記述がある。

④連想型：語呂合わせや連想などを通して、ポックリ信仰のご利益に結びつくというパターンである。例えば、例44の三重県志摩郡志摩町にある「志摩のぬれ仏」のことであるが、昔から波打際に舟人や海女を守る地藏であるが、満潮時に、腰まで海水が浸ることから腰からシモの病に靈験があると伝えられるようになったという²⁰。つまり、「腰まで海水が浸る」ことから連想させ、「腰からシモの病に守られる」有り難いご利益が考え出されたという素朴な庶民の発想からの産物だといえよう。また、「那須与一」に関するもう一つの伝説であるが、『平家物語』において、与一が太陽を描いた「紅に金色の日の丸の扇」を一発で射落とした弓の技が描かれている。太陽は生命の根源で、その太陽を描いた扇を落とす行為を、人間の命を落とすことと重ね合わせ考えることから、ポックリ祈願に転化したのではないかと考えられる²¹。それらはそこまで論理的に通じない部分があるかもしれないが、現実的に人々に信仰されていることは、それこそ「民間信仰」というものではなかろうかと考えられる。

6 祈願方法

「撫でさすり四百四病ではげ給ひ」という江戸時代の川柳があり、さすがの賓頭盧尊者も四百四もの病で撫でさすられると、塗装もはげてしまったという意味である²²。おびんずるさまは、病人が自分の患部と尊者の同じところを交互に撫でると、病気が治ると信じられ、「撫で仏」とも呼ばれ親しまれている。つまり、人々は神仏に願をかけ、祈りを捧げる際に、ただ手を合わせたり、賽銭を供えたり、お札やお守りを頂くのではなく、実際の効果はともかく、神仏像に撫でたり、何かを身につけたりして祈りの行ないにはバリエーションに富むのである。ポックリ信仰においても例外がなく、特に教義に基づいて決まっていなく、寺院と参拝者それぞれ独自の発想などによって祈りの行ないがいろいろ工夫されて行われる。一方、増加した要望でポックリ信

仰の流行に乗せて始めた寺院においては、現在受ける祈りの行ないをそのまま模倣して展開していくという模倣性が帯びられることも考えられる。

①肌着類祈願

付表で示されているように、ポックリ寺院において特によく見られる祈りのやり方の一つは、肌着類やタオル、晒などをもって祈祷が行われることである。



写真6、7 参拝者が並んでご祈祷を受けた肌着やタオルなどを頂く風景
(2015年6月7日山形・風立寺にて筆者撮影)

これは、ポックリ信仰のご利益と関係があるのではないかと考えられる。つまり、家族など周りの人にシモの世話になりたくないというわけである。昔は腰巻きやふんどしで、現在は、パンツやシャツなどの肌着類やタオル、晒をもって祈りが行われる。例えば、ポックリ信仰で名高い「吉田寺」（奈良）は、別名「腰巻き寺」とも呼ばれる。この寺の門前には「腰シモ・スソの世話かからぬ肌着の御祈祷あり」と書かれた看板が掲げられ、ご祈祷を希望する者が持参した新品のパンツやシャツなどの肌着類や晒しの布に当寺からもらったお札をのせ、包み紙に水引をかけ、本尊の阿弥陀如来さまの前で祈祷がなされる。ご祈祷を受けた肌着や晒は身につけたり、あるいは枕や布団の下に敷いて寝たりするのである。

②柱

柱に関して有名なものは福島県の「弘安寺・中田観音」、
「恵隆寺・立木観音」、「如法寺・鳥追観音」からなる「会津ころり三観音」の「だきつき柱」であろう（写真8、9）。
「弘安寺」では、「抱きつき柱のお参りの仕方 歳をとって死病の床についた時には長わずらいをしない様にと心の中で念じて抱きついて下さい」と柱に書かれている。「恵隆寺」の「抱きつき柱」については、当寺によって発行された「立木千手観音案内記」によると、「本尊におすがりする代わりの柱」と説明され、「内陣右角の「だきつき柱」は周囲1.75mの丸柱で、信者のみなさんが心願を込める時に抱きつきます…本尊に次いで信仰を集めております」



写真8 「如法寺・鳥追観音」の「だきつき柱」
(2014年7月31日筆者撮影)

と記されている。「如法寺」では、「善男柱」と「善女柱」と二本があり、「慶長十八年津川城主、岡半兵衛重政公観音堂再建の時、善男柱は男衆、善女柱は女衆が集まり心願をこめて建立したと伝う」とその由来と、「未婚者は良縁招来、夫婦は和合、家庭圓滿、厄除、長壽安楽、心願成就」とご利益が柱に記されている。年月を経て、ぴかぴかと光っている柱を見ると、どれほどお年寄りたちに抱きつかれたかが覗ける。

③「霊水」

「霊水」を飲んで祈ることもしばしば見られる。例えば、山形・米沢の「普門院」の場合は、ポックリの信仰対象となる「コロリ観音」が安置されている「錦戸薬師堂」に「澄心の泉」(写真10)という霊水場がある。その由来話によると、「『御尊像』並びに『澄心の泉』は、戦勝と臨終正念を本誓とし霊験あらたかにして…」²³と記されている。また、上記の吉田寺においても、「清水の霊泉」という霊水があり、「万病にきくが特に腰より下やすその世話がかからず、無病息災で長寿を完うして往生できるという」[斑鳩町史編集委員会 1963: 434]という記述がある。

そのほかにも、お札に願い事を書いて水に流したり(写真11、12)、お札をトイレに貼ったり、神仏に好物を供えたりなど様々なやり方で祈りが行われるのである。



写真9「弘安寺・中田観音」の「だきつき柱」(2014年7月31日筆者撮影)



写真10「普門院・錦戸薬師堂」の「澄心の泉」(2013年11月2日筆者撮影)



写真11「ほけ封じ観世音菩薩」(2013年9月6日埼玉・常満寺にて筆者撮影)



写真12「ほけ封じ観世音菩薩」前の祈願札を流す水鉢(2013年9月6日筆者撮影)

おわりに

現代日本人の盛んな信仰を集めている「生」と「死」にまつわるポックリ信仰は、シモの世話になるような長思いせず健康で長生きし、臨終の際に苦しまず安らかに死んでいきたいという「長生願望」と「安楽往生願望」という基本的な構造をもつものである。「ぼっくり観音」や「ころり薬師」、「びんころ地蔵」など祈りの対象となるものは多種多様で、しかもたとえそれに関わる空間が仏教的だとしても、特定宗派の色はなく、参詣者に対する規制力が緩やかである。

ポックリ信仰のご利益との結びつき方や祈りのやり方は非合理的なものだと思われるかもしれないが、それは信じようとする側に主体性があり、人々のポックリ願望の集まりが、それにむく神仏を作った、あるいは既存の神仏にその利益を付与したのではないかと考えられる。つまり、ポックリ信仰は個人レベルにおいて展開され、その宗教施設の教えとは直接関わらない好き勝手な一面があると考えられる。

参考文献（50音順）

- 青山央、1992、「ポックリ信仰」『大法輪』59、大法輪閣
- 有吉佐和子、1972、『恍惚の人』、新潮社
- 飯島吉晴、1992、「烏枢沙摩明王と廁神」宮田登、坂本要編『俗信と仏教』（仏教民俗学大系8）、名著出版
- 斑鳩町史編集委員会編、1963、『斑鳩町史』、斑鳩町役場
- 伊勢崎市編、1989、「村の社寺と信仰」『伊勢崎市史・民俗編』、伊勢崎市
- 磯部宅成、2004、「ぼっくり弘法大師と荒熊神社」『みなみ』、南知多町郷土研究会
- 伊藤唯真、1984（1988）、「阿弥陀信仰の基調と特色」伊藤唯真編『阿弥陀信仰』、雄山閣
- 井上勝也、1978、「ポックリ信仰の背景」『ジュリスト』増刊総合特集12、有斐閣
- 江島其磧（長谷川強校注）、1701（1989）、『けいせい色三味線 けいせい伝受紙子 世間娘気質』（新日本古典文学大系78）、岩波書店
- 菊地正、1987、『とんとんむかし』、東京新聞出版局
- 木村博、1989、『死一仏教と民俗』、名著出版
- 同上、1993、「現代人と『ポックリ』信仰」仏教民俗学大系編集委員会編『仏教民俗学の諸問題』（仏教民俗学大系1）
- 佐々木幸恵、1994、「ツアー-熊本県泉村「ぼっくり寺」の日本一長い石段」『週刊新潮』、新潮社
- 鈴木岩弓、2004、「老いと宗教」池上良正ほか編『岩波講座 宗教』7、岩波書店
- 関沢まゆみ、2000、「ぼっくり信仰」福田アジオほか編『日本民俗大辞典』、吉川弘文館
- 武田道生、1998、「ぼっくり信仰」佐々木広幹ほか編『日本民俗宗教辞典』、東京堂出版
- 竹中淳、1986、「<欲望の終着駅>全国ポックリ信仰案内」『婦人公論』、中央公論社

- 立石尚之、2005、「岩井市弓田のぽっくり不動尊」『西郊民俗』、西郊民俗談話会
- 立川昭二、1993、『病気を癒す小さな神々』、平凡社
- 陳甜、2014、「『恍惚の人』にみるポッキリ信仰の流行」『東北宗教学』10、東北大学宗教学研究
室
- 塚本哲、1976、『ぽっくりさん信仰』、保健同人社
- 中村元・早鳥鏡正・紀野一義訳注、1990、『浄土三部経（上）』、岩波文庫
- 中村幸彦ほか編、1999、「ぽっくりわうじゃう」『角川古語大辞典』5、角川書店
- 日本国語大辞典第二版編集委員会小学館国語辞典編集部編、2001、「ぽっくりおうじょう」『日本
国語大辞典』2（12）、小学館
- 伴よう、1995、「北の地藏さん—ころりさん」『大法輪』、大法輪閣
- 同上、1997、「北の地藏さん 煙草好きのころりさん」『大法輪』、大法輪閣
- 松崎憲三、2007、『ポッキリ信仰—長寿と安楽往生祈願—』、慶友社
- 宮田登、1993（1997）『「心なおし」はなぜ流行る』、小学館
- 山口信治、1978、「ポッキリ信仰にみられる老人の孤独（二）」佛教大学学会編『佛教大学研究紀
要』62、佛教大学学会
- 山中清次、1991、「那須与一の伝承と信仰」栃木県立博物館編『那須与一の歴史・民俗的調査研
究』、栃木県立博物館
- 渡辺喜勝、1981、「民間信仰儀礼にみる死生観の一例—米沢普門院『コロリ信仰』を中心に—」『山
形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告』8、山形県立米沢女子短期大学附属生活
文化研究所
- 渡浩一、1998、「地藏信仰」佐々木広幹ほか編『日本民俗宗教辞典』、東京堂出版
- 「悲しい流行・ぽっくり信仰」『毎日新聞』、1972年5月10日
- 「二十三夜尊保和院桂岸寺 ぴんころ地藏完成 水戸」『茨城新聞』2007年11月27日

-
- 1 日本国語大辞典第二版編集委員会小学館国語辞典編集部編「ころり」『日本国語大辞典』小学館、2001：1157を参照。
 - 2 同上。
 - 3 www.takamorie.jp/~pinkoro/gaiyou.htmより参照、閲覧日：2015年7月13日。
 - 4 筆者が附表によるまとめたもの。
 - 5 渡浩一「観音信仰」佐々木宏幹ほか監修『日本民俗宗教辞典』東京堂出版、1998：133頁を参照。
 - 6 渡浩一「地藏信仰」佐々木宏幹ほか監修『日本民俗宗教辞典』東京堂出版、1998：225頁を参照。
 - 7 渡浩一「観音信仰」佐々木宏幹ほか監修『日本民俗宗教辞典』東京堂出版、1998：133頁を参照。
 - 8 山中清次「那須与一の伝承と信仰」栃木県立博物館編『那須与一の歴史・民俗的調査研究』栃木県立博物館、1991：119頁を参照。
 - 9 同上：122—127頁を参照。
 - 10 木村博「『安楽死』の願い」『死—仏教と民俗』名著出版、1989：65—66頁を参照。
 - 11 「毎日新聞」データベース
<https://dbs.g-search.or.jp/aps/WSKR/dispImage3?serviceid=WSKR&kino=WMSKMM19720510120600>、閲覧日：2015年9月29日。
 - 12 筆者が附表によるまとめたもの。

- 13 青山央「ポックリ信仰」『大法輪』大法輪閣、1992：146頁を参照。
- 14 陳甜「『吉田寺』におけるポックリ信仰の展開」『論集』印度学宗教学会、2014：37-55頁を参照。
- 15 伊藤唯真「阿弥陀信仰の基調と特色」伊藤唯真編『阿弥陀信仰』雄山閣、1984（1988）：143—160頁を参照。
- 16 飯島吉晴「烏枢沙摩明王と廁神」宮田登・坂本要編『仏教民俗学大系8 俗信と仏教』名著出版、1992：313-328頁を参照。
- 17 同上。
- 18 「毎日新聞」データベース：<https://dbs.g-search.or.jp/aps/WSKR/disImage3?serviceid=WSKR&kino=WMSKKM19720510120600>、閲覧日：2015年9月29日。
- 19 木村博「『安楽死』の願い」『死—仏教と民俗』名著出版、1989：65—66頁を参照。
- 20 竹中淳「＜欲望の終着駅＞全国ポックリ信仰案内」『婦人公論』中央公論社、1986：230—235頁を参照。
- 21 山中清次「那須与一の伝承と信仰」『那須与一の歴史・民俗的調査研究』栃木県立博物館、1991：125頁を参照。
- 22 立川昭二『病気を癒す小さな神々』平凡社、1993：311頁を参照。
- 23 「薬師堂保存会」による作られた「錦戸薬師堂の由来」という看板（昭和61年9月8日）を参照。
- 24 付表以外にも小さな祠や道端に佇む知る人ぞ知るポックリ信仰の対象となるものがあると考えられる。

付表「ボックリ信仰」関連施設一覧²⁴

NO	呼称	信仰対象	利益	縁起	祈り方	施設内の位置	施設名	所在地	宗派	本尊	出典
1	ぼっくり長命極楽地蔵	地蔵	長生き、大往生			境内	弘法寺	青森県津軽市木造吹原屏風山	高野山真言宗	弘法大師	筆者検証
2	ぼけ除観音	観音	ボケ封じ			境内	全仏山青龍寺	青森県青森市大字桑原字山崎	高野山真言宗	大日如来	青龍寺ホームページ： http://showa-daibutu.com/guide/ ボケ避け観音を参照
3	ころり地蔵尊	地蔵	安楽往生	雑野語で大蛇に殺された修験者の安珍を、出身地の白石で供養するため作られた。	地蔵の足を人知らず舐めるところり往生がこなう	境内	瑞珠山延命寺	宮城県白石市不遑ヶ池	真言宗智山派	大日如来	筆者検証
4	小原(まけ)除け・ころり観音	観音	ぼけ除け、安楽往生	人々が老後に不安を感じているため、ぼけずに迷惑をかけずにコロリと往生することを祈願し、平成7年に別当寺である清光寺の吉野範雄住職が建立			飛不動尊	宮城県白石市小原江志山		不動明王	筆者検証
5	関のピンピンコロリ地蔵尊	地蔵	元気で長生き、大往生			地蔵堂	関泉寺	宮城県刈田郡七ヶ宿町大杉	曹洞宗		筆者検証
6	青麻大権現	常陸坊海尊(清晃仙人)	中風病退除	天正年間伊達家の臣亀岡の郷土飯坂左衛門尉茂宏、敬神の念毎に厚く青麻の大神を信仰し、鎮守神として御立したたが、茂宏の母が中風になつた時医薬薬膳等百方手を尽くしたが快方の兆しが見えず、21日圓大神の前に願をかけたたら至快した。それより中風除けの神として祀られている〔木村、1989：54〕	「三度語でれば生蓮の中風の難よりのがれる」と伝えられる		青麻神社	宮城県仙台市宮城野区岩切麻山		天之御中主神・天照大御神・月読神	筆者検証
7	コロリ地蔵さん	地蔵	安楽往生	「コロリ(コレラ)にかからない地蔵」が「コロリ地蔵」となつて、ころり往生ができてきたと伝えられるようになったという		寺の墓地裏	増田山満福寺	秋田県横手市増田町	曹洞宗	阿弥陀如来	伴よう「北の地蔵さんーころりさん」「大法輪」大法輪閣、1995：178-180を参照
8	コロリ地蔵尊	地蔵	安楽往生	江戸中期に愛宕神社別当、阿闍梨測瀧という健翁が参詣者の安楽往生を願ひ、生きながら土中に埋まり、熱心に祈りを捧げ、即身成仏を遂げたといわれる	地蔵さんは好みに煙で、綿糸ともどもに煙草を供えて祈う願いが叶うのである	地蔵堂		秋田県湯沢市上院内愛宕神社手前		伴よう「北の地蔵さん、煙草好きのころりさん」「大法輪」大法輪閣、1997：188頁を参照	
9	コロリ地蔵	地蔵	シモの世話にならず安楽往生			境内のお堂	長谷寺	秋田県湯沢市柳町	曹洞宗		木村博「『コロリ地蔵』のこと」『秋田県民俗』秋田県民俗学会、1973：1-7頁を参照
10	いびた地蔵と千体地蔵	地蔵	中風除け	米沢で長思しいして雲法おことそを「いひた」と云い、中風除けの地蔵様として信仰される	中風除けのお箸と護符	千体地蔵堂	長命山幸徳院萱野寺	山形県米沢市	真言宗豊山派	釈迦如来	幸徳院ホームページ： http://sasano-kannon.com/keida_info.html#sentai を参照

11	ころり観音	如意輪観音	安楽往生	もとは長谷堂城主が奉祀したもので、ろりと落つるに似ているから諸共につとめ勳藩で観音様におすがりして立派な生涯を送ろうと也」といういわれからころり観音と呼ばれるようになった	観音堂	長谷川ころり観音堂	山形県山形市長谷堂	山形県山形市山寺	天台宗	如意輪観音	木村博「『安楽死』の願い」『死—仏教と民俗』名著出版、1989：46-49を参照
12	ころり往生阿弥陀如来	阿弥陀如来	安楽往生	元の人病気で苦しんでおり、なかなかに在生できないうところこの仏像に拝んだら苦しみをなく往生できたよとから「ころり観音」と呼ばれるようになったと言われる	常行念仏堂	宝珠山立石寺	山形県山形市山寺	天台宗	薬師如来	筆者検証	
13	三宝阿の生き如来：「ころり観音」	阿弥陀如来	ほけ、長患い封じ、安楽往生	昔から薬師様並びに「澄心の泉」が戦勝と臨終正念に靈験あらたかにさわれている	本堂と奥の院	鼻上山風立寺	山形県山形市下東山	天台宗	阿弥陀如来	筆者検証	
14	ころり薬師	薬師如来	安楽往生		普段は本堂。例大祭の前日に神輿で錦戸薬師堂へ	岩上山普門院	山形県米沢市園根	真言宗智山派		筆者検証	
15	中田観音	十一面観音	安楽往生		本堂	普門山弘安寺	福島県大沼郡会津美里町	曹洞宗	十一面観音菩薩	筆者検証	
16	立木観音	十一面観音	安楽往生		本堂	金塔山惠隆寺	福島県河沼郡会津坂下町	真言宗豊山派	十一面千手観音	筆者検証	
17	鳥追観音	聖観音	安楽往生		本堂	金剛山如法寺	福島県耶麻郡西会津町	真言宗室生寺派	聖観音	筆者検証	
18	延命びんころり地蔵	地蔵	健康長寿と安楽往生	水戸藩の藩医の遺言により、人々が天命をまとうしころりと最期を迎ええることを願ひ、1750年頃建てられた延命地蔵尊	愛染堂（縁結びの横	大悲山保和院桂岸寺	茨城県水戸市松本町	真言宗豊山派	勢至菩薩	「二十三夜尊保和院桂岸寺 びんころり地蔵完成 水戸」『茨城新聞』2007年11月27日を参照	
19	ボックリ地蔵	地蔵	安楽、長寿、極楽往生	地蔵像に享保2（1717）年の文字が刻まれている	地蔵堂	鹿島神社	茨城県取手市萱場			取手市ホームページ： http://www.city.toride.ibaraki.jp/index.cfm/9,4078,31,280.html を参照	
20	ボックリ不動尊	不動明王	安楽往生	戦国時代に焼け残った不動明王を阿弥陀堂に設置した。それ以来、不動尊への信心を通じて、極楽往生へ導く阿弥陀如来への願いが届く	阿弥陀堂	慈光寺	茨城県坂東市弓田	天台宗	阿弥陀如来	立石尚之「岩井市弓田のぼっくり不動尊」『西郊民俗』西郊民俗談話会、2005：14-16を参照	
21	“ほけ封じ観音”世言	観音	ほけ封じ	北関東で最初のほけ封じ観音	境内	梅花山成就院	栃木県下都賀郡岩船町三谷	真言宗豊山派	不動明王	成就院ホームページ： http://www.cc9ne.jp/~oyako-sidare/about/sansakuhim を参照	

山口

22	幸三郎地蔵	地蔵	安楽往生	狩野幸三郎という人が養業に助んで人々の信頼を得ていたが、非業の死を遂げ、その菩提のため「幸三郎地蔵」と名付け建てられた。その幸三郎地蔵は様々な霊験を現し、近郷の人々の信仰を集めてきた。老人が参詣すれば、安楽に成仏するといわれる。	満願成就のあがけや頭巾を奉納する	共同墓地	保寿院石屋山常満寺(保久利寺)	群馬県伊勢崎市下連寺	群馬県伊勢崎市高萩	日高市高萩	禪宗系単立	薬師如来、千手観音、釈迦如来、十三仏、水子地蔵	「村の社寺と信仰」『伊勢崎市中・民俗編』伊勢崎市、1989：671を参照
23	白春はけ封じ・中風封じ・ぼっくり往生観音と釈迦	千手観音と釈迦	延命、安楽封じ、安楽往生	「皇の上、ベツドの上などでぼっくり往生したい願ひ、思いで開相草木帝満大和尚が全国のぼっくり寺を巡り、1991年に唯一はけ封じ・延命・ぼっくり往生として開山したという	流しれ、肌守り	本堂前	保寿院石屋山常満寺(保久利寺)	埼玉県日高市高萩	埼玉県日高市高萩	禪宗系単立	禪宗系単立	常満寺ホームページ： http://ぼっくり寺.jp/index.htmlを参照	
24	保久利大権現	保久利大権現	長生き・長思いせず安楽往生	1973年高松市の保久利大権現より勸請	「保久利大権現守護処」のお札、ハンツヤ繻料折袴		福祐山頭妙寺(ぼっくり寺)	千葉県いすみ市長志	千葉県いすみ市長志	日蓮宗	日蓮宗	頭妙寺ホームページ： http://temple.nichiren.or.jp/1031056-kemmyouji/を参照	
25	びんびんころり大師	弘法大師	健康に生き、寝込むことなく大師往生		びんびんころりお守り	大師堂	東光院	千葉県千葉市緑区平山町	千葉県千葉市緑区平山町	真言宗豊山派	真言宗豊山派	東光院ホームページ： http://www.tokoin.com/kobodaishi.htmlを参照	
26	「保久利(ぼっくり)観音さま」	聖観音	長寿、シモの健康、保く(はくり)往生			本尊脇	桃源山功德院龍泉寺	東京都王子市長房町	東京都王子市長房町	浄土宗	浄土宗	菊地正『とんとんむかし』東京新聞出版局、1987：107頁を参照	
27	矢来のお釈迦様	釈迦	シモの世話にならず良い往生	「桓武天皇」が鎮護国家泰寿命長久のたぬ比叡山根本「伝教大師」へ勅命し彫刻された尊像といわれている	下着祈願、「お百度」を踏み護符を頂く	釈迦堂	一樹山宗柏寺	東京都新宿区稷町	東京都新宿区稷町	日蓮宗	日蓮宗	宗柏寺ホームページ： http://souhakuji.com/01_syodou/index.html#syakadouを参照	
28	ぼっくり観音はけ除け観音	聖観音；千手観音	はげよけ・安楽往生		「はけ除け」往生のお札	境内	長谷山仙光院	神奈川県鎌倉市薬山町	神奈川県鎌倉市薬山町	高野山真言宗	高野山真言宗	仙光院ホームページ： http://www.senkouin.org/precinct/kannon-rokujizou.htmlを参照	
29	ぼっくり大師とはけ封じ観音	弘法大師；観音	はげ封じと安楽往生	「はけ封じさんでボケなくても波たきりの長思いは嫌だ」という樹信徒の声に応じて「ぼっくり大師」が建てられた	足元の湧水に柄杓にすくい、ペンピンコロロの往生を祈念；杖大に敷いて毎日渡る	境内	福泉寺	神奈川県横浜区長津田町	神奈川県横浜区長津田町	高野山真言宗	高野山真言宗	福泉寺ホームページ： http://www.fukusenji.jp/eng.htmlを参照	
30	ぼっくり地蔵	地蔵	安楽往生			境内	松林山禅長寺	新潟県佐渡市赤泊	新潟県佐渡市赤泊	真言宗智山派	真言宗智山派	禅長寺ホームページ： http://sadowetemple.jp/zenchoji/02_midokoro.htmlを参照	
31	ぼっくり地蔵	地蔵	健康長寿、迷惑をかけず安楽往生			境内	成就山管明寺	新潟県佐渡市上新穂	新潟県佐渡市上新穂	真言宗智山派	真言宗智山派	管明寺ホームページ： http://www.kanmeiji.jp/daigomi.htmlを参照	
32	びんころり地蔵	地蔵	健康長寿、安楽往生	2003年に全国から健康長寿のまちとして注目される佐久市のシンボルとして、地元「のざわ商店街」により「成田山薬師寺」参道に建立	地蔵の体を触りながら「つお願い」事を祈る	山門前	成田山薬師寺	長野県佐久市野沢	長野県佐久市野沢	真言宗智山派	真言宗智山派	佐久市のざわ商店街振興組合(びんころり地蔵)ホームページ： http://pinkoroc.comを参照	

33	ピンビンコロリ地蔵	地蔵	健康長寿、安楽往生	[PPK (ピンビンコロリ) 運動] 発祥の地であることに因んで建立	願掛け地蔵に老人達の「ぼっくり死にたい」という願掛けが多くあり、いつしか「ぼっくり地蔵」と呼ばれるようになった	瑠璃寺(天台宗) 境内	光明助徳佛	長野県高森町大高山			光明助徳佛ホームページ： http://www.takamori.ne.jp/pinkoro/index.htmlを参照
34	下田のお地蔵さん	地蔵	健康長寿、安楽往生			公園内	玉諸公園	山梨県甲府市向町			甲府市ホームページ： http://city.kofu.yamanashi.jp/senior/otanasasi/no3/shimoda.htmlを参照
35	びんころ地蔵	地蔵	健康長寿、安楽往生		2007年7月、マロニエ下呂温泉20周年記念事業として、命の通(健康ロード)の建設とともに、弘法山、飛騨信貴山・三坊様の精入配りを得て、地蔵尊と観音菩薩を建設。びんころ地蔵尊の名のいわれは、健康で長生きし、薬に大往生が出来ることから	温泉地の散策路	オテ・マロニエ下呂温泉	岐阜県下呂市萩原町			下呂温泉ホームページ： http://marrommer.info/pinkoro/index.htmlを参照
36	輔吉離往生佛	釈迦如来	延命天寿、安楽往生、身体健全			輔吉離仏堂	見性寺	静岡県葵区新間	曹洞宗	如意輪観音	見性寺ホームページ： http://kenshoji.com/?page_id=67を参照
37	便所の神様	烏瑟沙摩明王	シモの世話にならず	不浄のものを浄化し清める徳を持つ古代インドの神様から「便所の神さま」として「下の世話にならず下半身の健康を保つ」という御利益が求められる	形だけしつらえめを「おまぎ」木で象徴の「おさすり」といわれている	寺の東司	明徳寺	静岡県伊豆市市山	曹洞宗	釈迦如来	木村博『「安楽死」の願い』『死一仏教と民俗』名著出版、1989：62-64を参照
38	遠州ぼっくり		安楽往生			子安延命堂	実谷山極楽寺(あじさい寺)	静岡県周智郡森町	曹洞宗	阿弥陀如来	極楽寺ホームページ： http://www.ajisaidera.com/info.htmlを参照
39	大聖歡喜双身天	大聖歡喜双身天	長生き、長いきいせ、安楽往生	昔ある姥が足柄山聖天尊に祈願し、歳たきりになつて下の世話を受けるよき物を持参し堂主に祈禱してもらった。年月を経て姥の孫のついでに聞いたら、「米寿の祝を縁で大往生」という言い伝えから	「腰の物」祈願	本堂	足柄山聖天	静岡県駿東郡小山町竹之下	曹洞宗	大聖歡喜双身天	木村博『「安楽死」の願い』『死一仏教と民俗』名著出版、1989：60-61を参照
40		釈迦	長生き、安楽往生			ぼっくり堂	岩戸山観世音寺風天洞	愛知県豊田郡足助町大蔵	日蓮系単立	聖観音	風天洞ホームページ： http://hutedou.jp/keidai/index.htmlを参照
41	ぼっくり弘法大師	弘法大師	長生き、長いきいせ、安楽往生	早稲屋のおばあさんが弘法大師を飾りお供えし死期を悟り荒熊神社に弘法大師像のお守りを託してぼっくり安らかに往生を遂げたことから	「願掛けふるべのおおし」を頭上にかざしてお願いするといい	弘法の社	荒熊神社	愛知県南知多町山海高座		荒熊大神	磯部宅成「ぼっくり弘法大師と荒熊神社」『みなみ』南知多町郷土研究会、2004：73-74を参照

52	那須与一 現	阿弥陀如来	長思いせず シモの串話 にならず安 業往生	京都の即成院から勧請、昔から「病まずに運ける」という信仰がある、近郷近在の人々から信仰されている	瑞祥寺	兵備県篠山市井串	曹洞宗		山中清次「那須与一の伝承と信仰」『那須与一の歴史・民俗的調査研究』栃木県立博物館、1991：124-127を参照
53	那須与一公墳 墓	安楽往生	安業往生	重病にかかった与一が村人に看病されながら臨終の時「我れ今日まで皆々さまに長々厚き看病に預かれ、そのご恩を報ぜず、ここに永き別れをすもなし。我れ死にたると、是非のなれ、かならず護人にかかるといいに残したことから	清水山顕光院吉田寺	奈良県斑鳩町小吉田	浄土宗	阿弥陀如来	木村博『『安楽死』の願い』『死一仏教と民俗』名著出版、1989：65-67を参照
54	「ぼっくり寺」	阿弥陀如来	無病息災、延年長寿、安業往生	源信が母の臨終の際に除魔の祈願をした浄衣を着せたこと、安らかに往生を遂げたこと、にちなむと伝えられるようになった	本堂				筆者検証
55	「ぼっくり寺」	阿弥陀如来	健康長寿、安業往生	源信が母の臨終の際に除魔の祈願をした浄衣を着せ、一緒に念仏しながら安らかに往生を遂げたこと、にちなみ、参詣するとポックリ運けると伝えられるようになった	本堂	奈良県香芝市良福寺	浄土宗	阿弥陀如来	筆者検証
56			長思いせず、世話にならず往生できる	江戸前期にこの地の郡奉行を務めていた吉弘胤家が主君である郡山藩主本多政勝の没後、その菩提寺をいつたために建立した「位牌堂」で、しか安業往生を願う人々が多くなっている	龕堂	奈良県葛城市新在家			竹中淳「〈欲望の終着駅〉全国ボックリ信仰案内」『潮人公論』中央公論社、1986：233頁を参照
57	ポックリ寺		安業往生	藩公はじめ奥方や側室等婦人方の最依篤く、家臣団の菩提寺として栄え往生できる、お参りするとして、昔から有名である。	富中山法泉寺	鳥取県鳥取市立川町	顕本法華宗	久遠実成 釈迦牟尼仏と宗祖実成の 大曼陀羅	法泉寺ホームページ： http://www.hal.ne.jp/housenji/を参照
58	ぼっくり地蔵	地蔵	安業往生		東光山瑠璃院福王寺	岡山県真庭市蒜山中福田	真言宗御室派	薬師如来	福王寺ホームページ： http://www.fukuouji.com/fukuoujhp/keidai.htmlを参照
59	嫁いらす観音	十一面観音	安産→嫁に苦勞をかけず観音往生	観音さまが人々を苦しめた妖怪を退治したことで、行基が十一面観音を彫った	嫁いらす観音院	岡山県井原市大江町	真言宗	十一面観音	鈴木岩弓「老いと宗教」『岩波講座 宗教』7岩波書店、2004：257-259を参照
60	嫁いらす観音：ぼけ封じ	観音	ボケ封じ、安業往生	薬師堂周辺に安置されている33体の石像は徳川時代に観音信仰に篤い豪商や豪農が寄進したもの、いつの頃からか老後の無病息災と家族の手助けを願わずに下さる霊験あらたかな仏に至った	薬師堂	山口県大島郡周防大島町久賀			周防大島町ホームページ： http://www.town.suo-oshima.lg.jp/syoutokankou/youmeizakannnon.htmlを参照

70	ぼっくり天狗	天狗	ぼけ封じ、健康長寿、安楽往生	この「ぼっくり天狗さま」は、高知県の山間部に在住の方から当社に寄贈されたもの。戦後間もない頃、旅の行商人が行き倒れになり、それを助けた当家の先代の主人を頂いた。行商人は「天狗様」を頂いた。行商人は「毎日朝晩、ホギホギと唱えてお祀りしてください。きつといいことがあります」と言い残して旅立った。それから主人は毎日「ホギホギ」(宝来宝来)と祀ったころ、病気がちだった息子も元気にとなり、家宝にも恵まれ多くの子に生まれながら百八歳をもって、大往生を見守りながら「ぼっくり」と大往生を遂げた。その息子が先日のテレビで当社のことを知って、偶然にも「ホギホギ」と唱える同じお祀りに感激し、「ぜひこの神社でお祀りしていただきたい。せひんか」と寄贈を申し込んだ。そこで当社には、このありがたいぼっくり天狗様をお祀りするために新しく神殿を建立する運びとなったという。	天狗の大きな鼻を両手でさすり、願いを心に念じて「ホギホギ」と四回唱える	ぼっくり天狗の社	宝来宝来神社	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰	御神体は「当錢岩」と呼ばれる巨岩	宝来宝来神社ホームページ： http://hogihogi.theshop.jp/items/303432 を参照
71	ぼけない地蔵、ぼっくり地蔵、寝地蔵の3体	地蔵	ぼけず寝つかず大往生	身代わりとして人生の心配事を引き受けていた。大往生の九十九歳の女性が平成元年に寄進	観音寺への石段の手前のお堂	八幡山命水延命地藏尊	大分県竹田市寺町八幡山		大分県観光情報公式ウェブサイト： http://www.visit-otita.jp/spot/h_taketa0024.html	